

最近の臓器移植の実施状況等

平成27年1月14日
移植医療対策推進室

第42回臓器移植委員会
平成27年1月14日

資料1

臓器移植法施行(平成9年10月16日)後の、脳死した者の の身体からの臓器提供数

(平成26年12月31日までに提供が行われた数を集計)

・ 脳死した者の身体からの臓器提供数 301名

(うち)臓器の移植に関する法律の一部を改正する
法律全面施行(平成22年7月17日)以降の提供数 215名

※ 法改正により、本人の書面による意思表示がない場合でも、家族の
書面による意思表示により臓器提供が可能となった。

(うち)家族の書面承諾のみに基づく提供数 162名
(そのうち15歳未満 6名)

臓器提供数・移植実施数・移植希望登録者数

(平成26年／括弧内の数は法施行から26.12.31(眼球(角膜)については26.11.30)までの間の累計)

	提供者数		移植実施数		移植希望登録者数 (27.1.5又は26.11.30(眼球)) ※同時移植の登録者はそれぞれの臓器に重複して計上。
		脳死した者からの提供数		脳死した者の身体からの移植数	
心臓	37名 (224名)	37名 (224名)	37件 (224名)	37件 (224名)	364名
肺	31名 (196名)	31名 (196名)	41名 (240件)	41名 (240件)	249名
肝臓	42名 (245名)	42名 (245名)	45件 (261件)	45件 (261件)	401名
腎臓	70名 (1,579名)	43名 (277名)	127件 (2,913件)	85件 (545件)	12,725名
膵臓	29名 (211名)	29名 (208名)	29名 (210件)	29名 (208件)	198名
小腸	0名 (13名)	0名 (13名)	0件 (13件)	0件 (13件)	5名
眼球(角膜)	829名 (16,446名)	24名 (122名)	1,283件 (26,510件)	45件 (235件)	2,010名

(注1)上記の他、臓器移植法に基づき脳死判定は行われたが臓器提供に至らなかった者が1名いる(平成12年度の事例)。

(注2)心臓及び肺の移植実施件数のうち、心肺同時移植は2件(平成20年度及び平成25年度に実施)となっている。

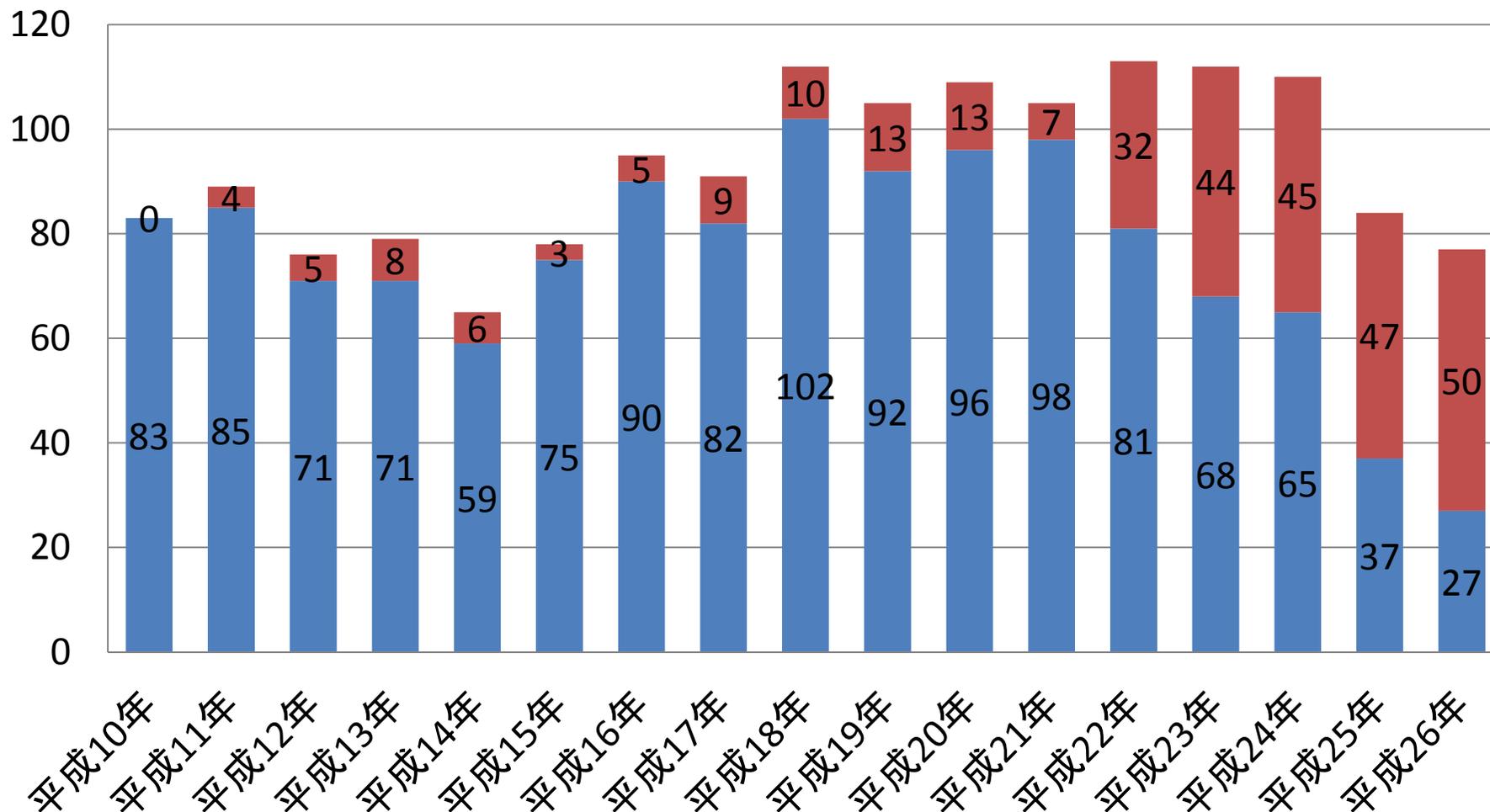
(注3)膵臓及び腎臓の移植実施件数のうち、膵腎同時移植は平成26年で24件、累計で167件(心停止下を含む。)となっている。

(注4)肝臓及び腎臓の移植実施件数のうち、肝腎同時移植は4件(平成24年度、平成25年度及び平成26年度に実施)となっている。

臓器提供者数の推移(年別)

(平成10年～平成26年)

※平成26年12月31日現在



■ 脳死(提供可能臓器) 心臓、肺、肝臓、膵臓、腎臓、小腸、眼球(角膜)
■ 心停止(提供可能臓器) 膵臓、腎臓、眼球(角膜)

臓器移植の結果

	生存率					生着率				
	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	3年	4年	5年
心臓	96.7%	96.7%	95.9%	94.7%	91.9%	96.7%	96.7%	95.9%	94.7%	91.9%
肺	86.6%	82.5%	80.0%	77.4%	72.3%	86.6%	82.5%	80.0%	77.4%	72.3%
肝臓	85.9%	82.3%	81.5%	80.6%	80.6%	85.1%	81.4%	80.6%	79.7%	79.7%
腎臓	96.4%	94.8%	93.4%	92.1%	91.1%	88.0%	84.5%	81.6%	78.4%	75.4%
膵臓	96.0%	96.0%	96.0%	96.0%	96.0%	84.8%	84.1%	79.9%	78.4%	75.3%
小腸	84.6%	67.7%	67.7%	67.7%	67.7%	84.6%	67.7%	67.7%	67.7%	67.7%

「生存率」: 移植術を受けた患者のうち、ある期間の後に生存している者の割合

「生着率」: 移植術を受けた患者のうち、移植された臓器がある期間の後に免疫反応による拒絶反応や機能不全に陥ることなく体内で機能している者の割合

- 心臓、肺、肝臓、膵臓及び小腸の移植は、平成26年3月末日までに実施されたもの。腎臓の移植は平成25年12月末日までに実施されたもの。
- 心臓、肺の生存率及び生着率の数値にはそれぞれ、心肺同時移植術を受けた患者の数値が反映されている。肝臓、腎臓の生存率及び生着率の数値にはそれぞれ、肝腎同時移植術を受けた患者の数値が反映されている。腎臓、膵臓の生存率及び生着率の数値にはそれぞれ、膵腎同時移植術を受けた患者の数値が反映されている。